

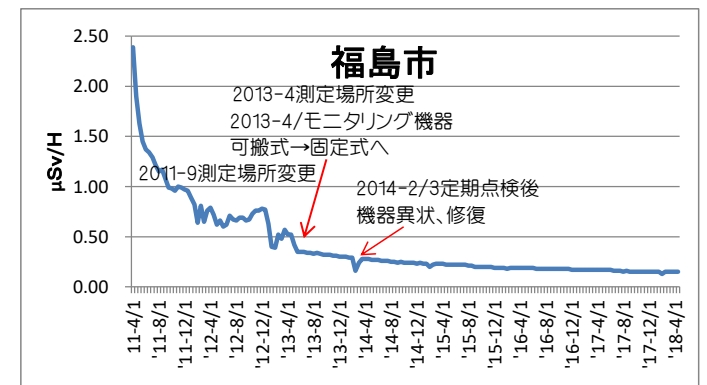
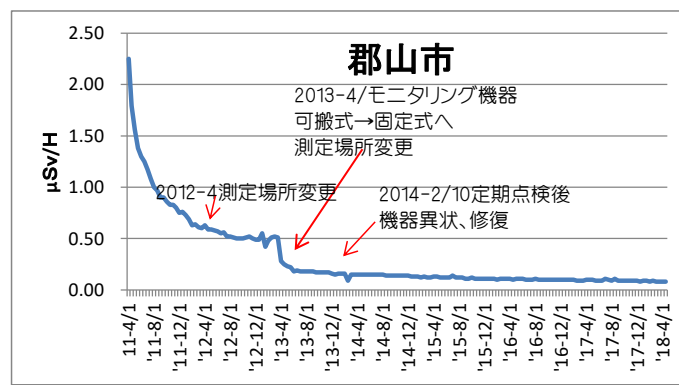
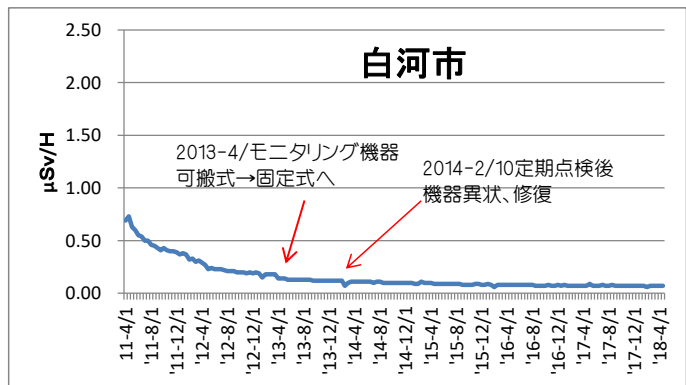
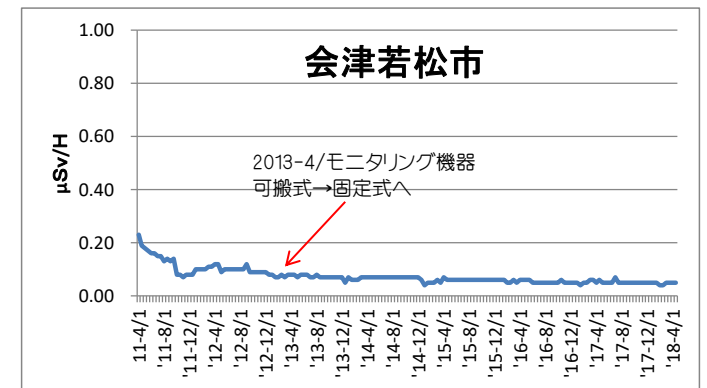
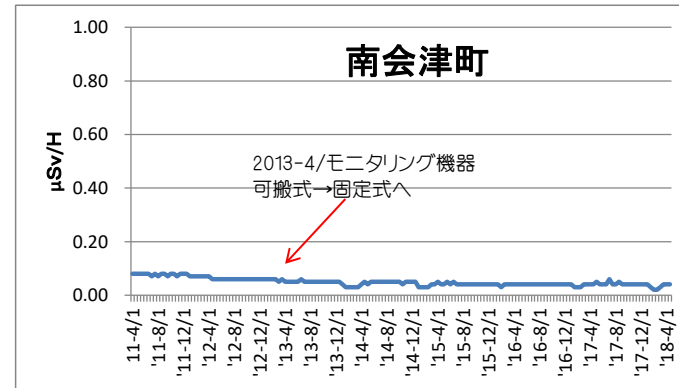
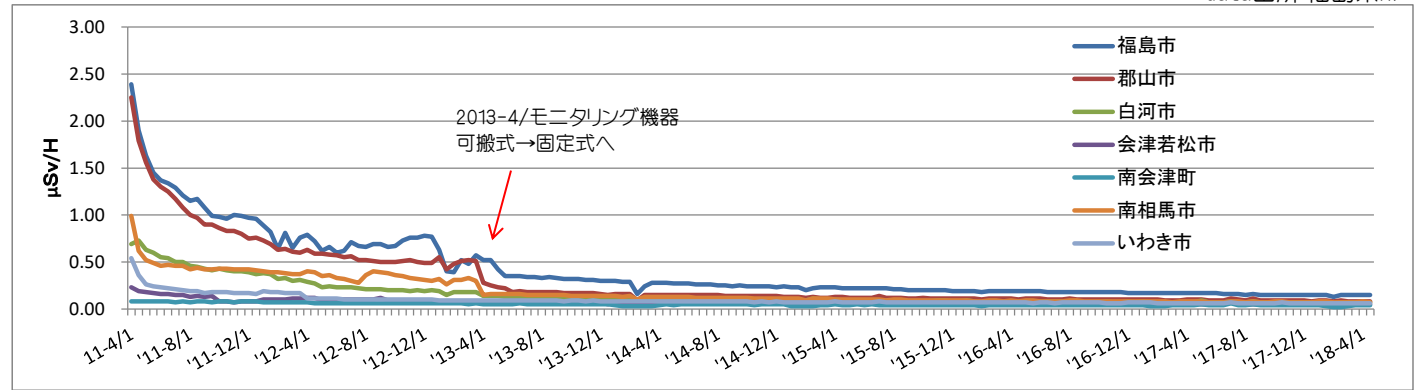
福島県七方部2011年4月～2018年4月空間放射線量推移

2018年7月15日
 一般社団法人 南相馬除染研究所
 Chief Director 田中節夫
 data出所:福島県HP

見えてきました。きれいな福島空が戻ってきた!!のが

対象地	測定地点	第一原発からの位置
福島市	県北保健福祉事務所南側広場	北西約63Km
郡山市	郡山合同庁舎東側駐車場	西約58Km
白河市	白河合同庁舎駐車場	西南西約81Km
会津若松市	会津若松合同庁舎駐車場	西約98Km
南会津町	南会津合同庁舎駐車場	西南西約115Km
南相馬市	南相馬合同庁舎駐車場	北約24Km
いわき市	いわき合同庁舎駐車場	南南西約43Km

福島県七方部立地位置



注) 図中定期点検など通常実施される点検記録は除く
 記録時期: 福島県HP掲載data、各月1及び15日PM12:00の測定値
 (単位: $\mu\text{Sv}/\text{H}$)



モニタリングポスト設置事例:
南相馬合同庁舎

Fig-1

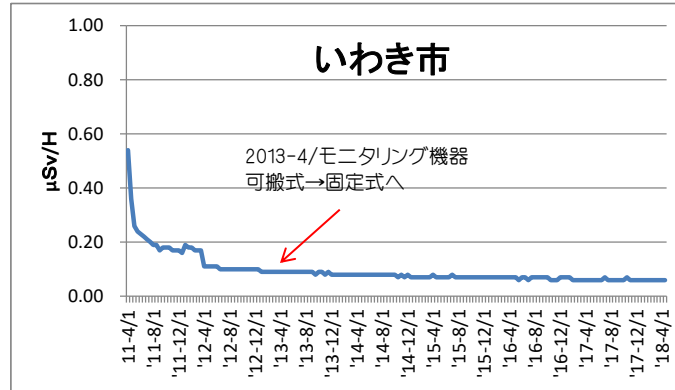
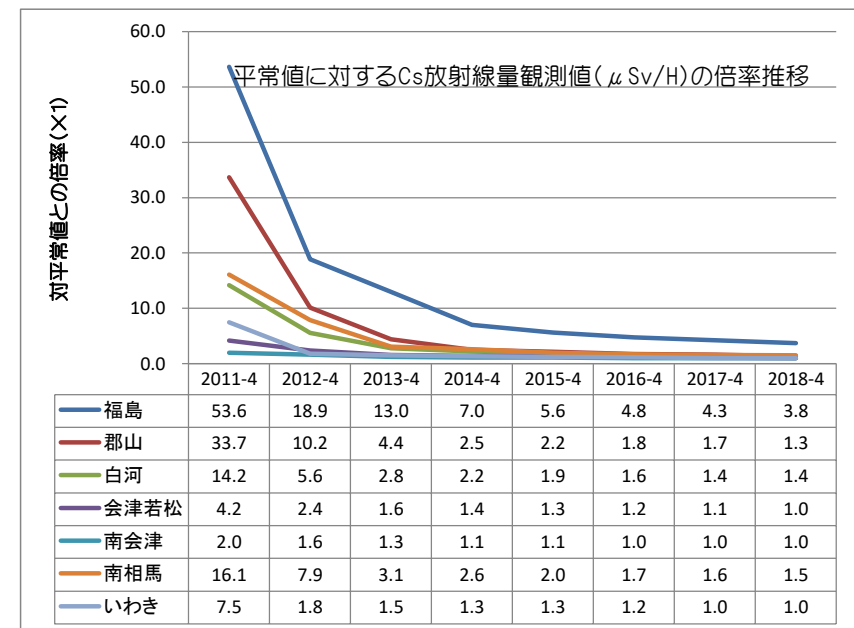
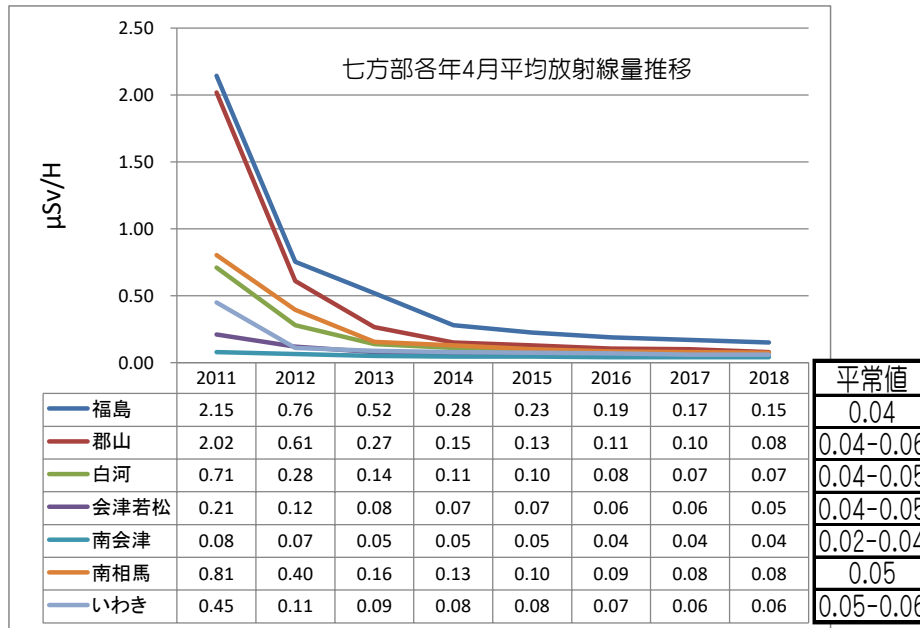
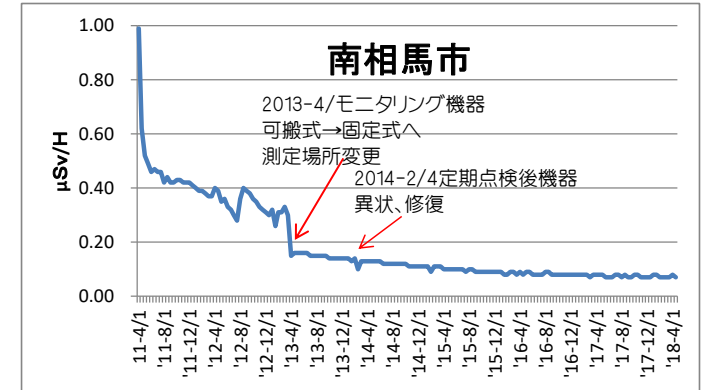


Fig-2



まとめ

- 福島第一原発事故から7年を経過した2018年4月の放射線量の観測値は、福島市を除きほぼ平常値に近いレベルまで低減しています。(Fig-1)
- 平常値に対する2018年4月の平均放射線量の倍率で比較すると、福島市を除き1.0~1.5倍の範囲になり、機器測定精度の能力からみても誤差範囲に近いのではないかと(Fig-2)
- 2018年4月福島市観測値の平常値比倍率は、平常値の3.8倍と最も高いレベルにありますが、観測値の0.15 $\mu\text{Sv}/\text{H}$ は年間被ばく量=0.788mSv/年と、国際的にも認知されている安全安心といわれる標準的な値1mSv/年を下回っています。
- 七方部観測地点以外の地点においても、0.19 $\mu\text{Sv}/\text{H}$ 以下であれば、年間被ばく線量は1mSv/年になります。現在年間被ばく総量として「何mSv/年までが健康被害リスクがない?」といえるか、現状追加被ばく量の目安は1mSv/年が目標となっています。議論の分かれるテーマですが最大では20mSv/年という意見もあります。